

本件問合せ先
(一社) 全国医学部長病院長会議
TEL 03-3813-4610
FAX 03-3813-4660
Mail info@ajmc.jp

一般社団法人全国医学部長病院長会議 「男女共同参画に対する意識調査」 結果

令和4年5月17日(火)

調査期間：令和 2 年 12 月 4 日～令和 3 年 2 月 7 日

調査対象：会員 82 大学の医学部及び附属病院(分院55を含む)に勤務(非常勤含む) する
教員、医師、研究者

調査回答者数： 5,003 名



一般社団法人 全国医学部長病院長会議
Association of Japan Medical Colleges

はじめに

一般社団法人全国医学部長病院長会議 男女共同参画推進委員会について

- 本委員会は、大学病院に勤務する医師が、性別を問わずあらゆる分野で平等に活動に参画し、共に責任を果たすことができる体制を推進するための活動を行っています。
- 国が目指す男女共同参画社会は、働き方の多様化が進み、男女共に働きやすい職場環境が確保されることによって個人が能力を最大限発揮でき、仕事と家庭の両立支援環境が整い、男性の家庭生活への参画が進み、男女がともに子育てや教育に参加する社会です。
- 令和2年～3年に、会員大学医師の男女共同参画に対する意識調査を実施しましたので、その結果の解析より、男女共同参画推進のために必要な取り組みを提案いたします。

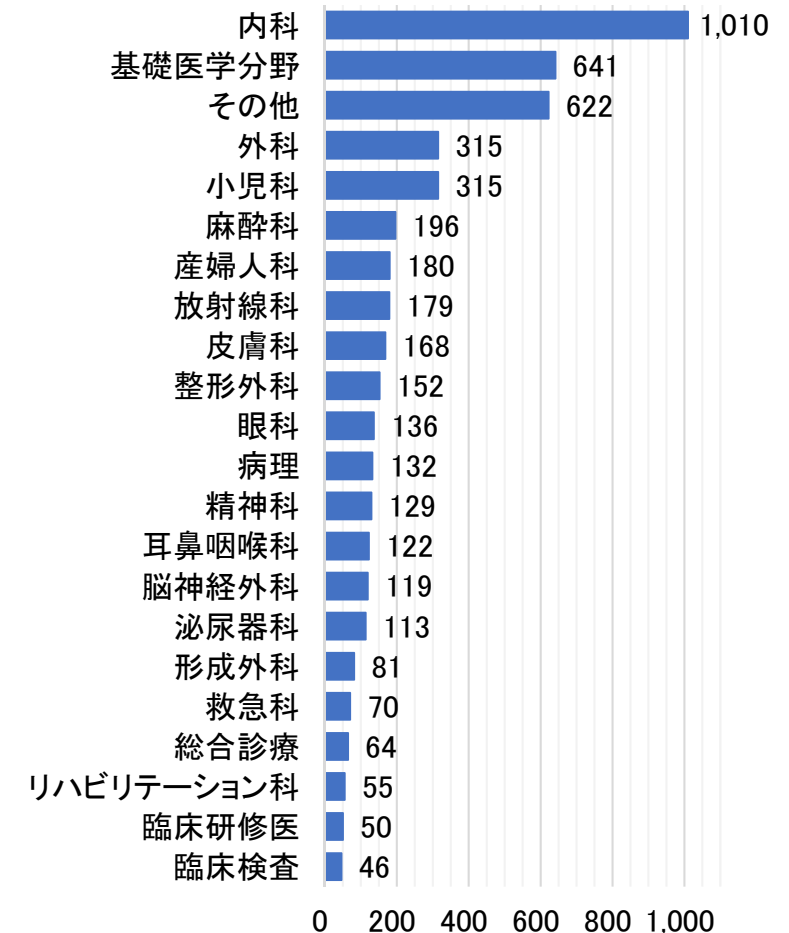
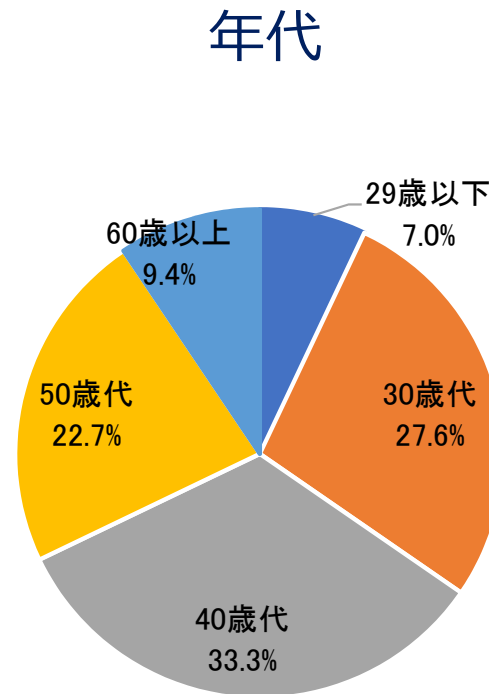
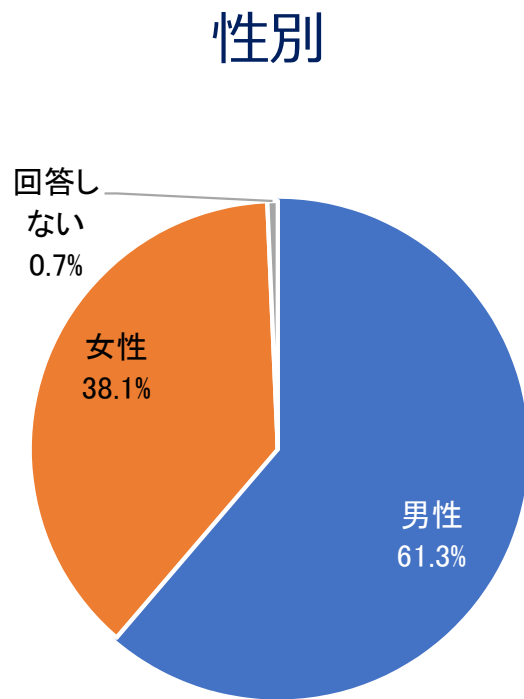
※本報告書及び提言については、AJMCホームページへの掲載の他、
関係機関（厚生労働省、文部科学省、内閣府）への提供を行っております。

一般社団法人全国医学部長病院長会議
会員大学 全国82大学の医学部および附属病院

会長 湯澤由紀夫（藤田医科大学学長、統括病院長）
男女共同参画推進委員会委員長 唐澤久美子（東京女子医科大学放射線腫瘍学教授・基幹分野長）
同 委員会委員 林 由起子（東京医科大学学長） 他委員12名

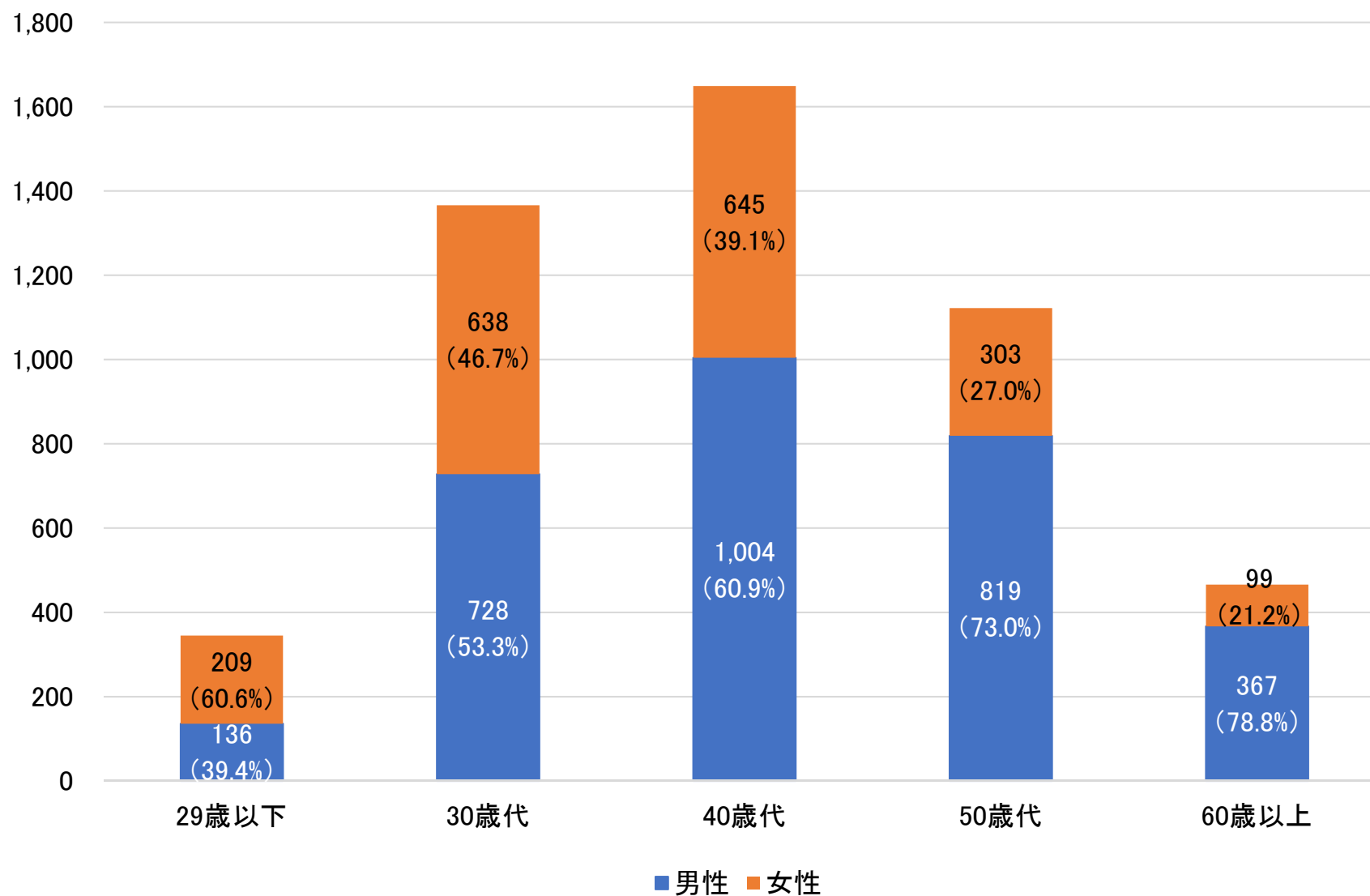
- ・ 調査期間：令和2年12月4日～令和3年2月7日
- ・ 調査対象：会員大学医学部、病院(分院含む)に勤務(非常勤含む) する教員、医師、研究者
- ・ 調査回答者数： 5,003 名

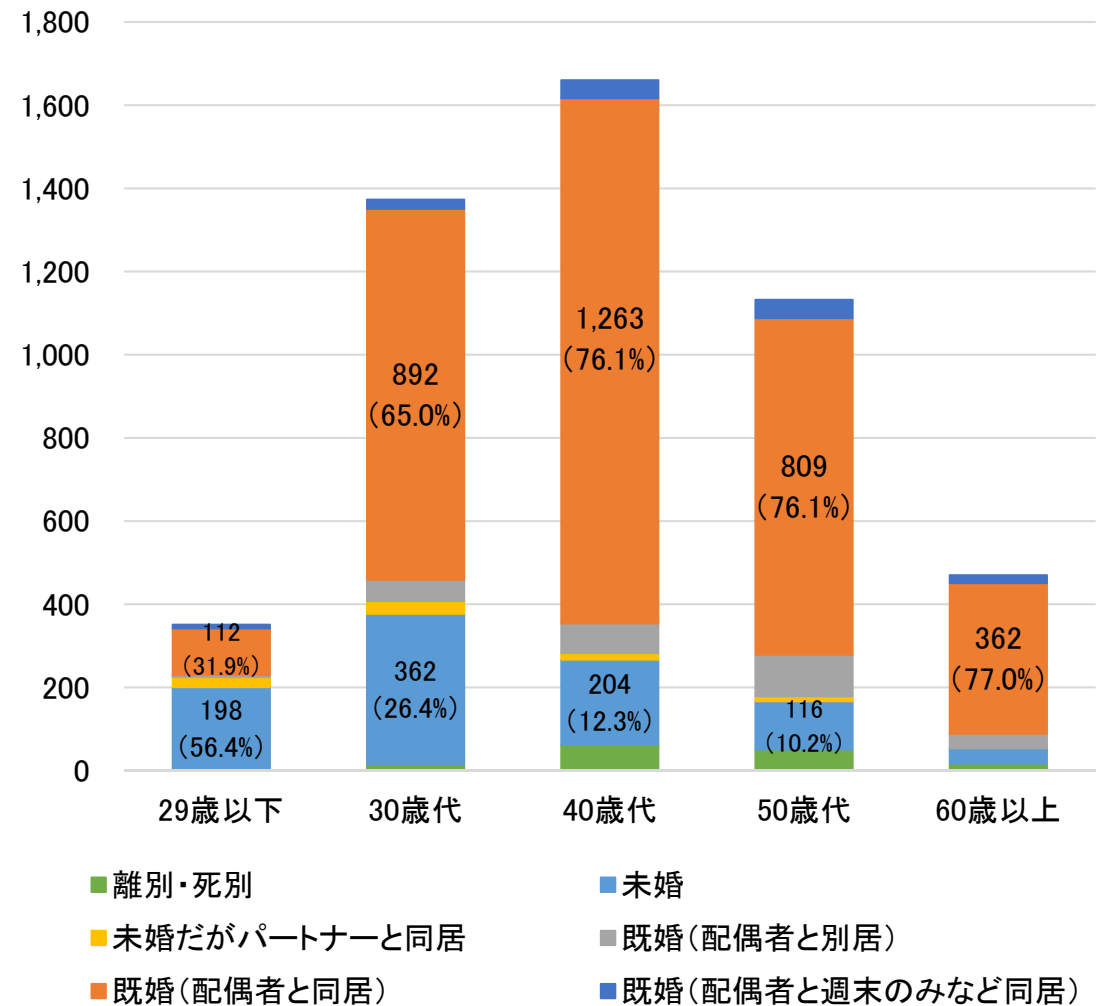
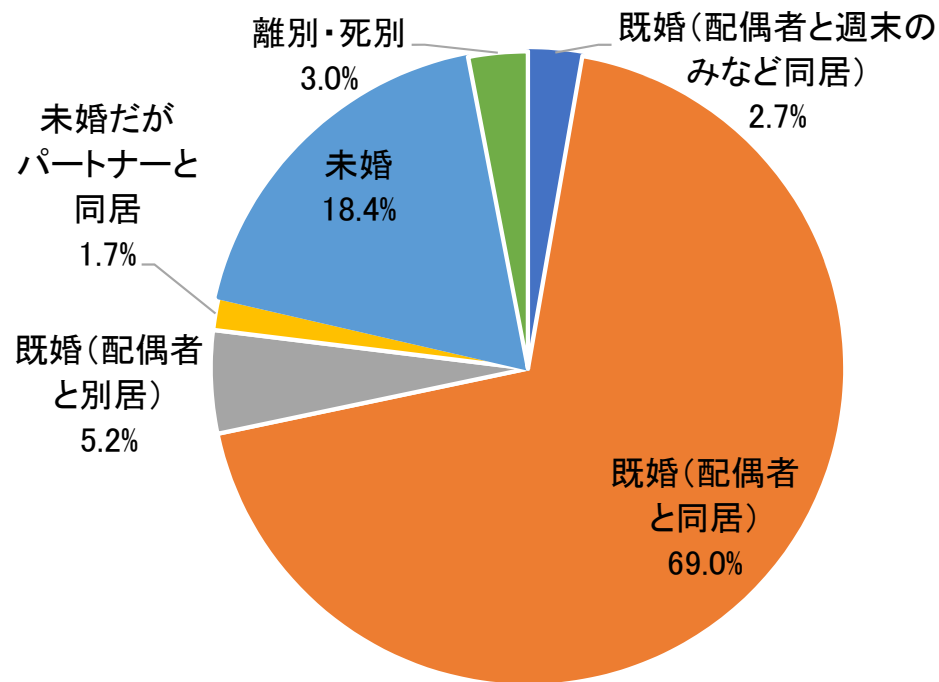
診療科（分野）



回答者の年代毎性別割合

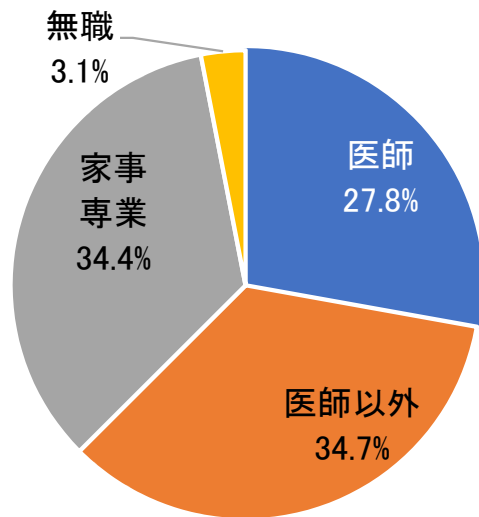
報告書 P10



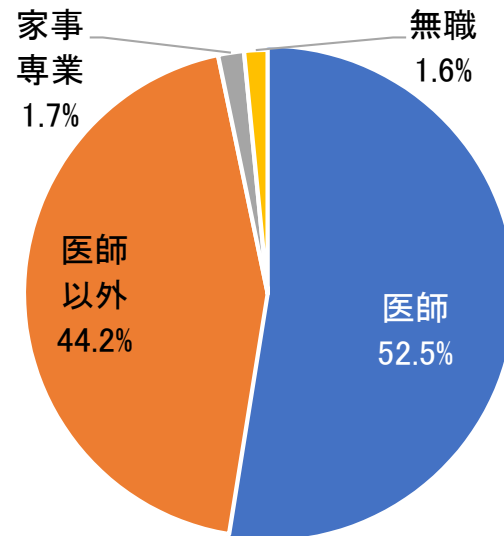


職種

男性回答者の
パートナー

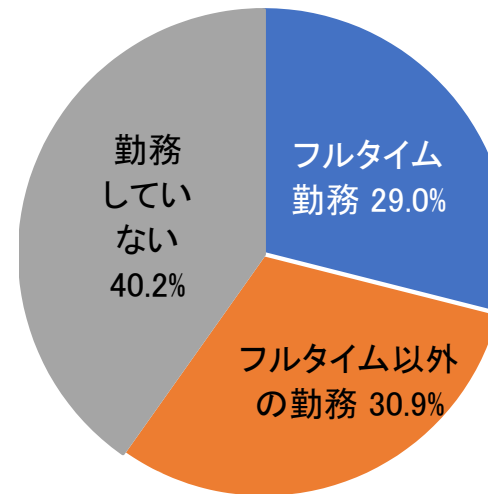


女性回答者の
パートナー

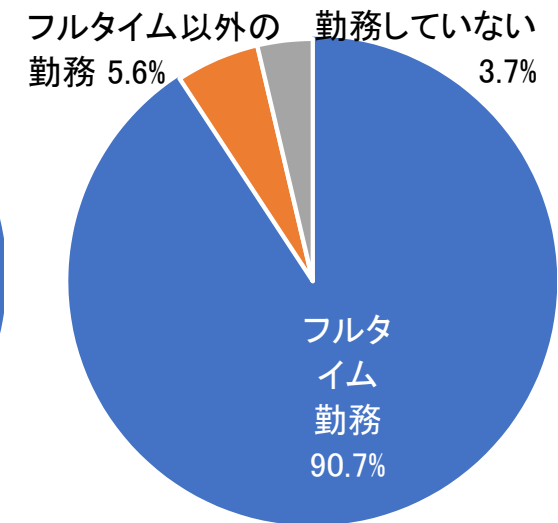


勤務形態

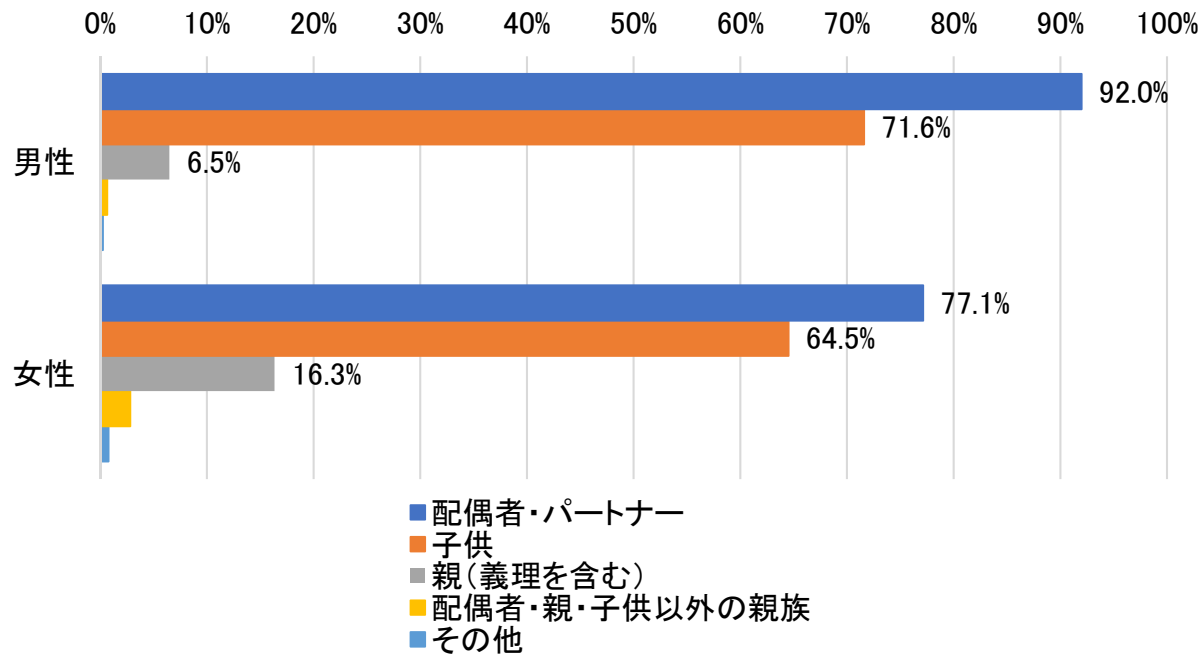
男性回答者の
パートナー



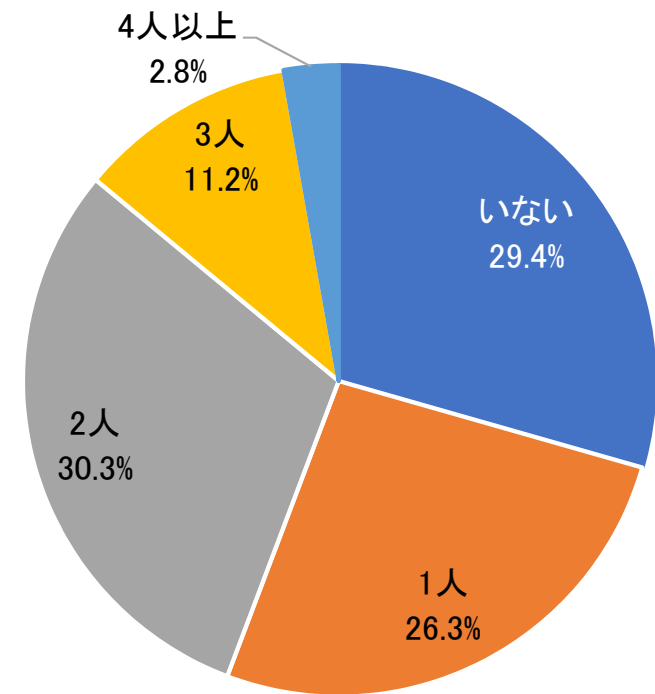
女性回答者の
パートナー



同居者



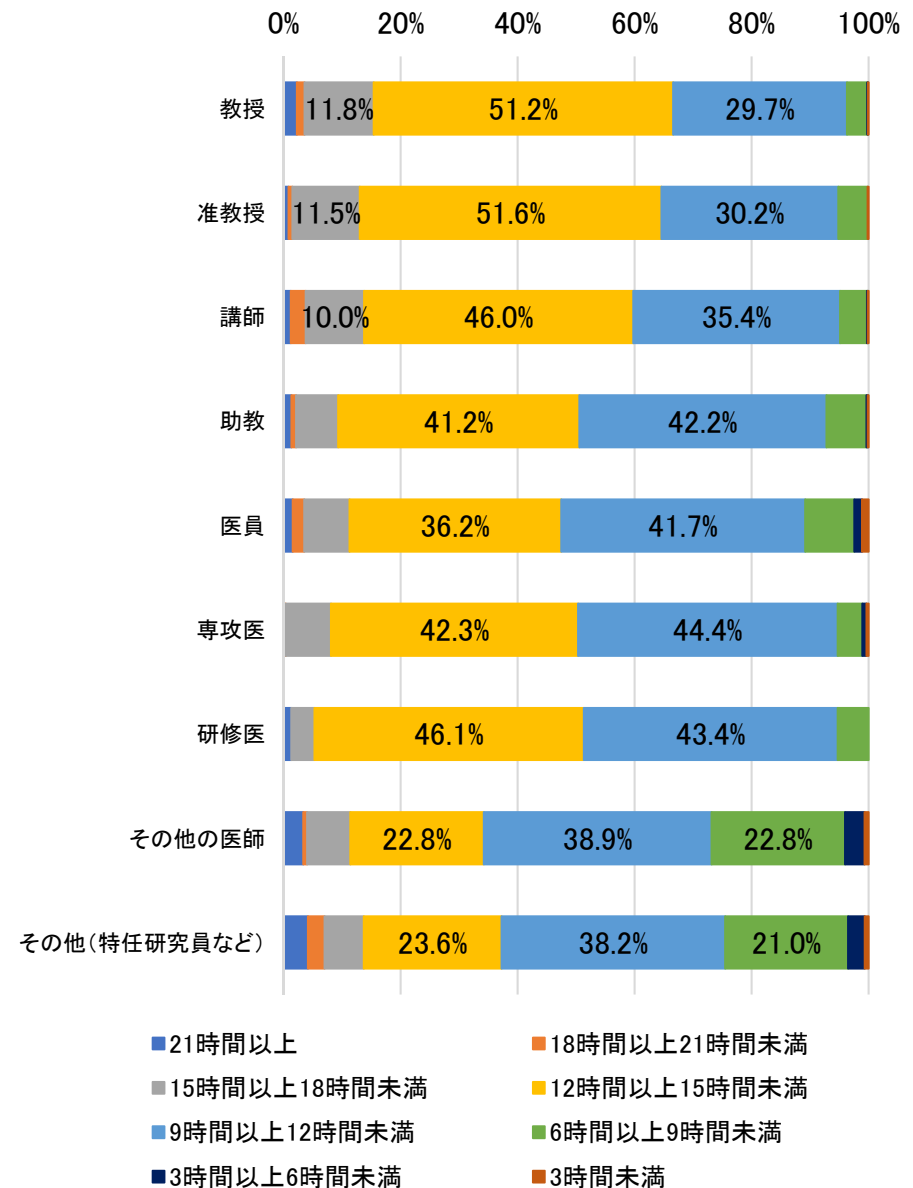
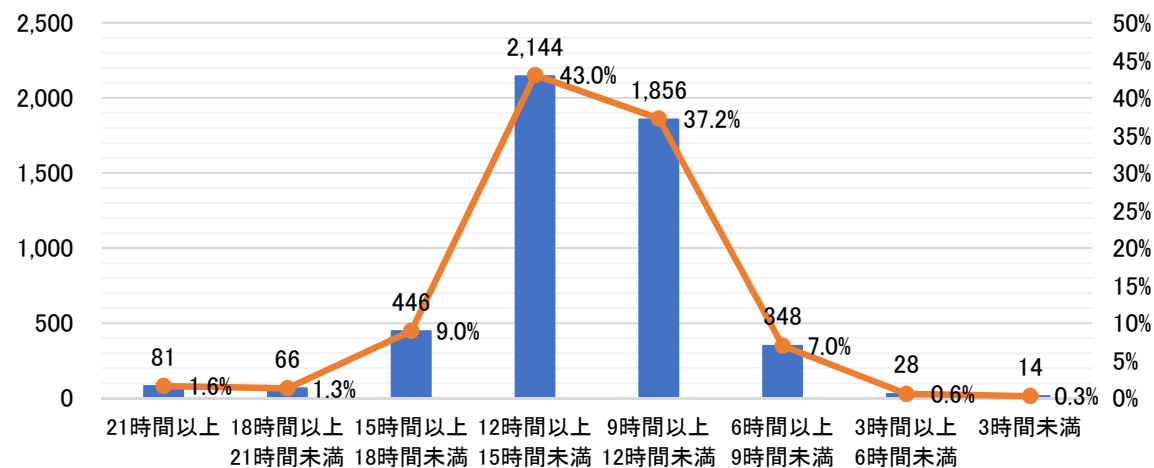
同居の子供



平均的労働時間

報告書 P32～33

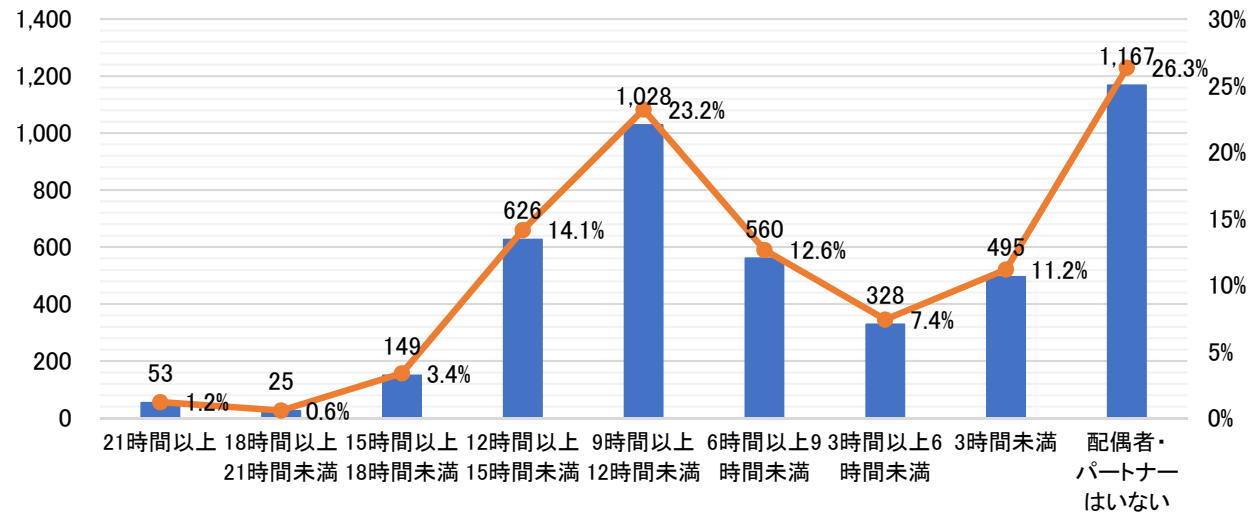
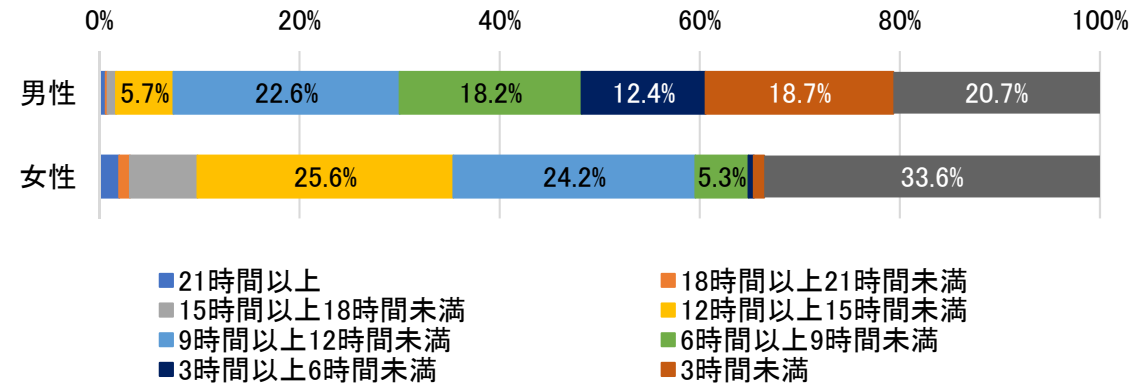
労働時間	回答者数	
21時間以上	81	1.6%
18時間以上21時間未満	66	1.3%
15時間以上18時間未満	446	9.0%
12時間以上15時間未満	2,144	43.0%
9時間以上12時間未満	1,856	37.2%
6時間以上9時間未満	348	7.0%
3時間以上6時間未満	28	0.6%
3時間未満	14	0.3%
総計(名)	4,983	



パートナーの平均的労働時間

報告書 P34

労働時間	回答者数	
21時間以上	53	1.2%
18時間以上21時間未満	25	0.6%
15時間以上18時間未満	149	3.4%
12時間以上15時間未満	626	14.1%
9時間以上12時間未満	1,028	23.2%
6時間以上9時間未満	560	12.6%
3時間以上6時間未満	328	7.4%
3時間未満	495	11.2%
配偶者・パートナーはいない	1,167	26.3%
総計(名)	4,431	



宿直

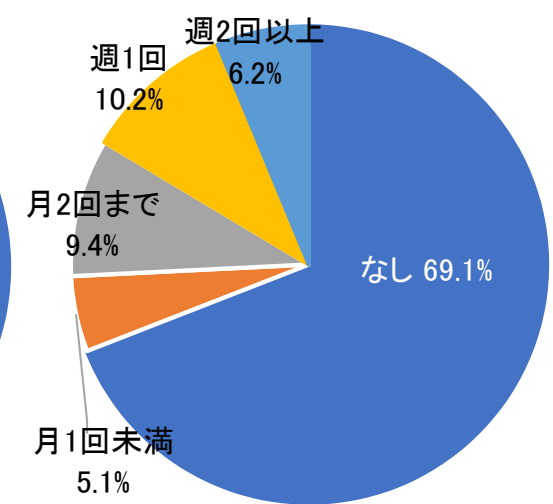
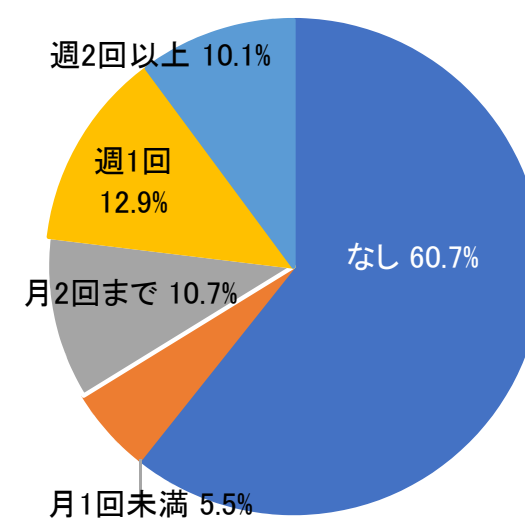
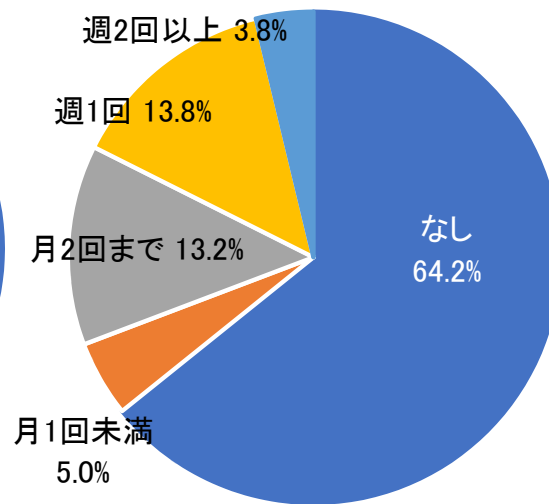
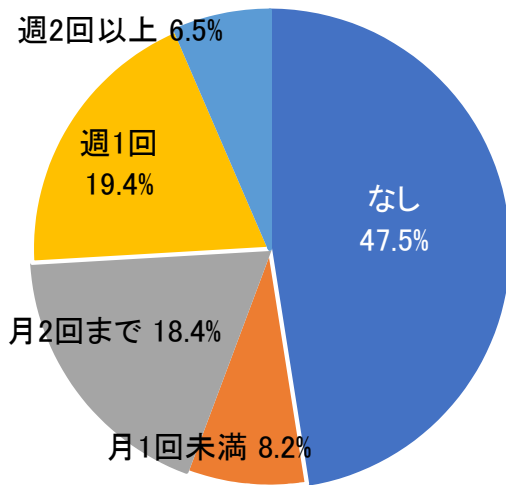
オンコール

男性

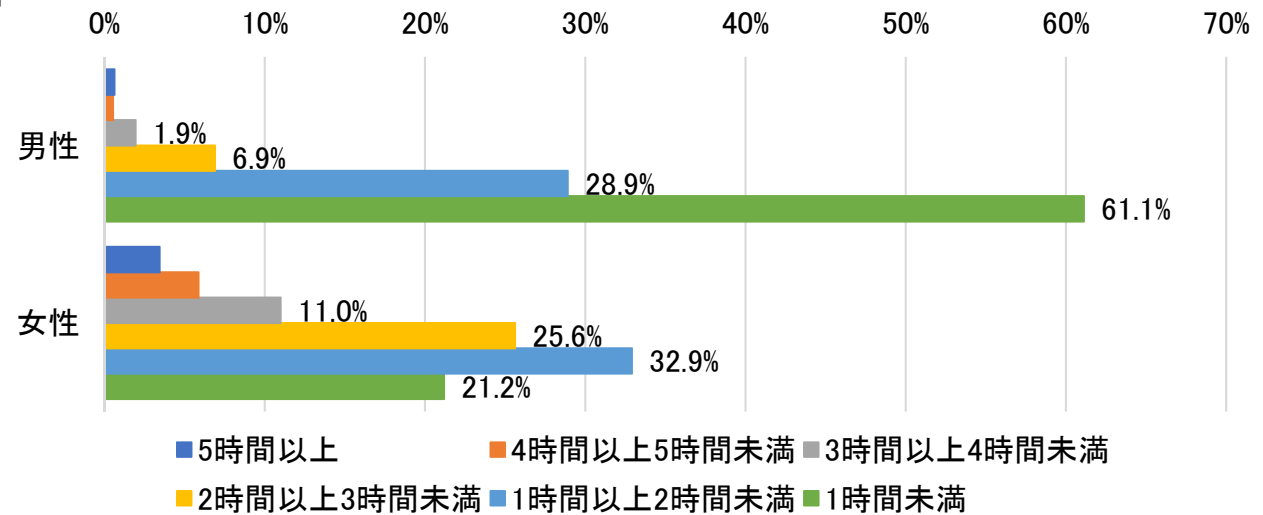
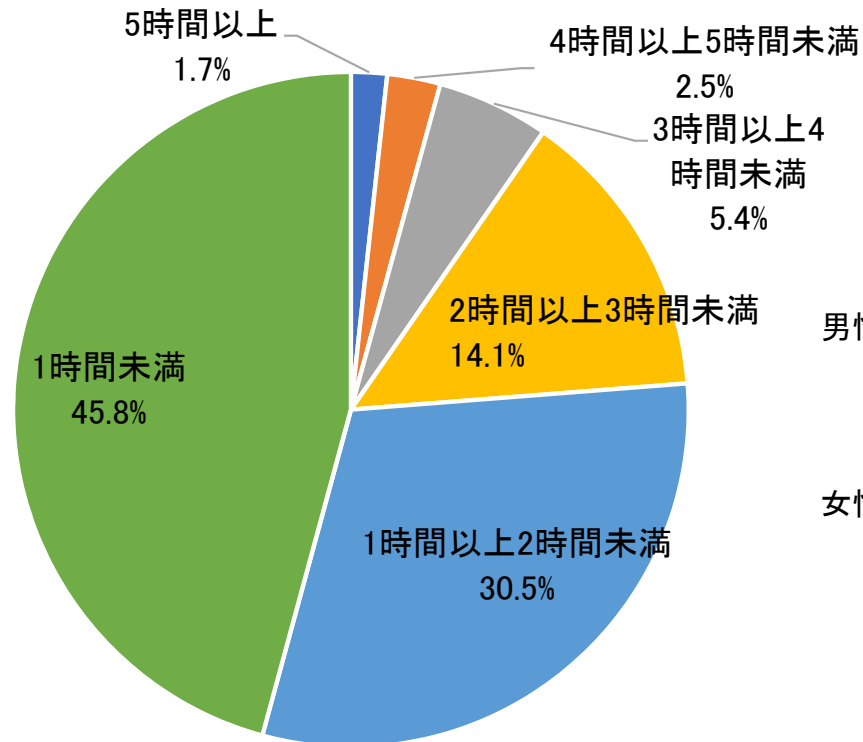
女性

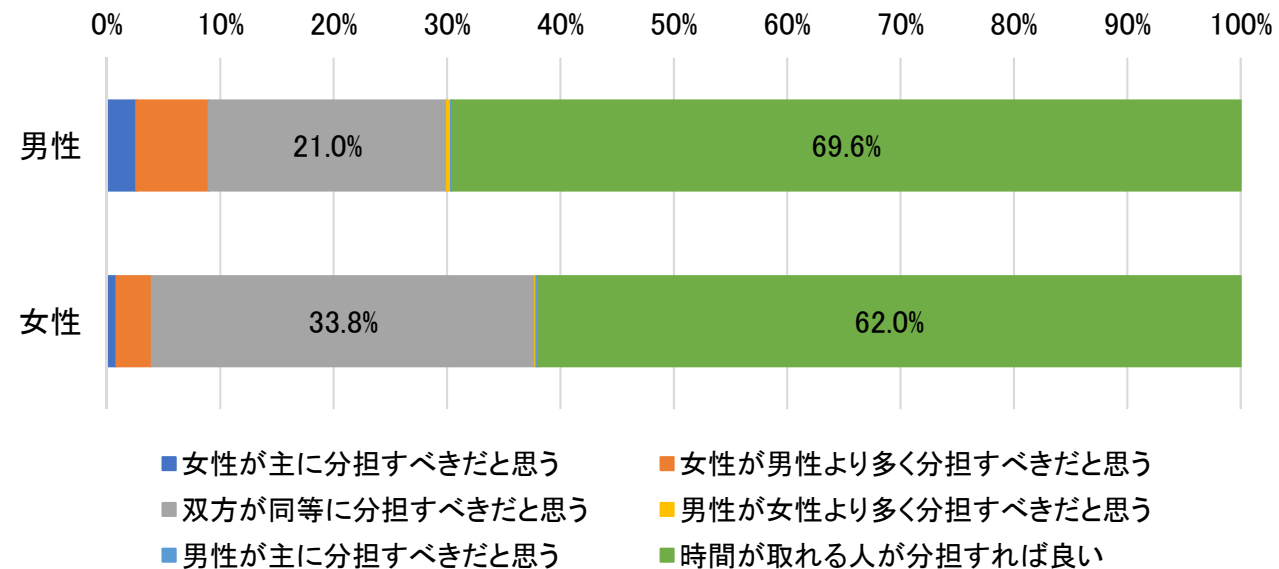
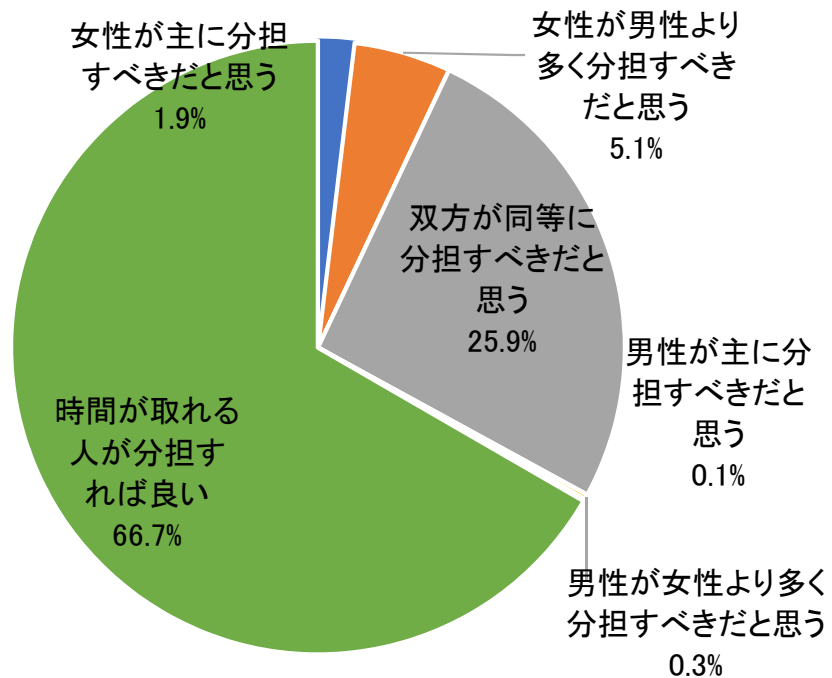
男性

女性

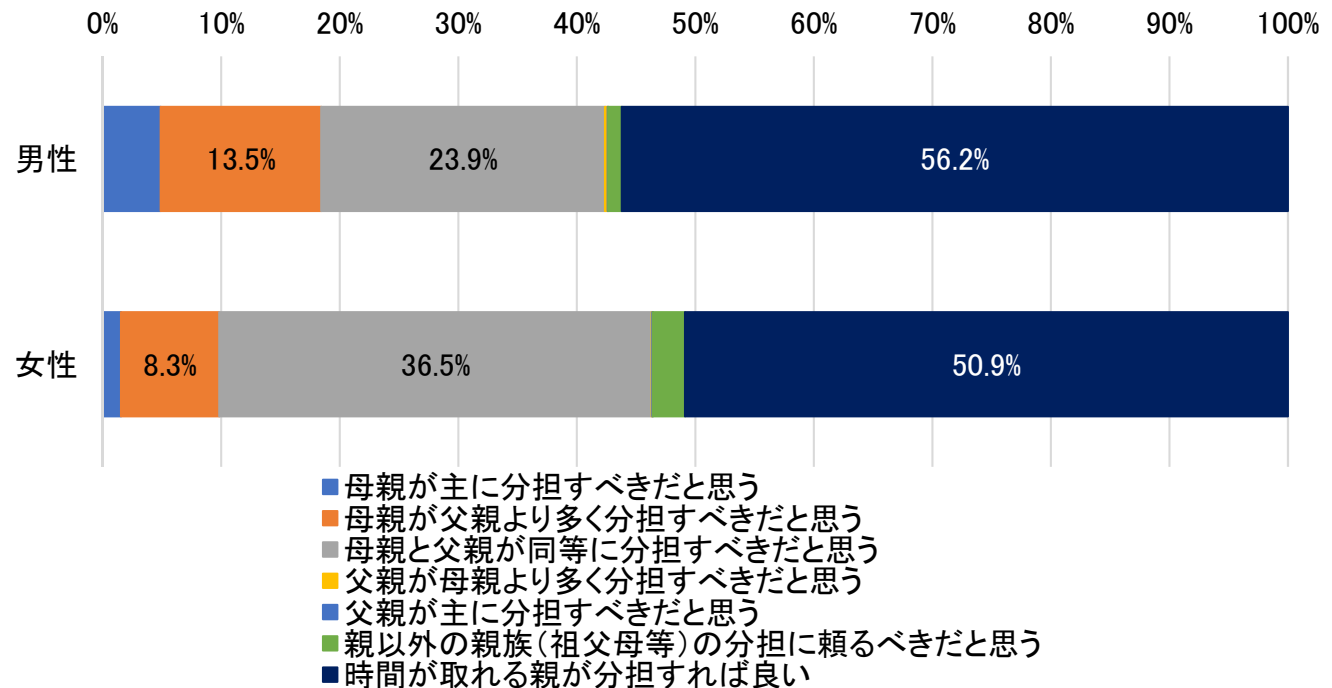
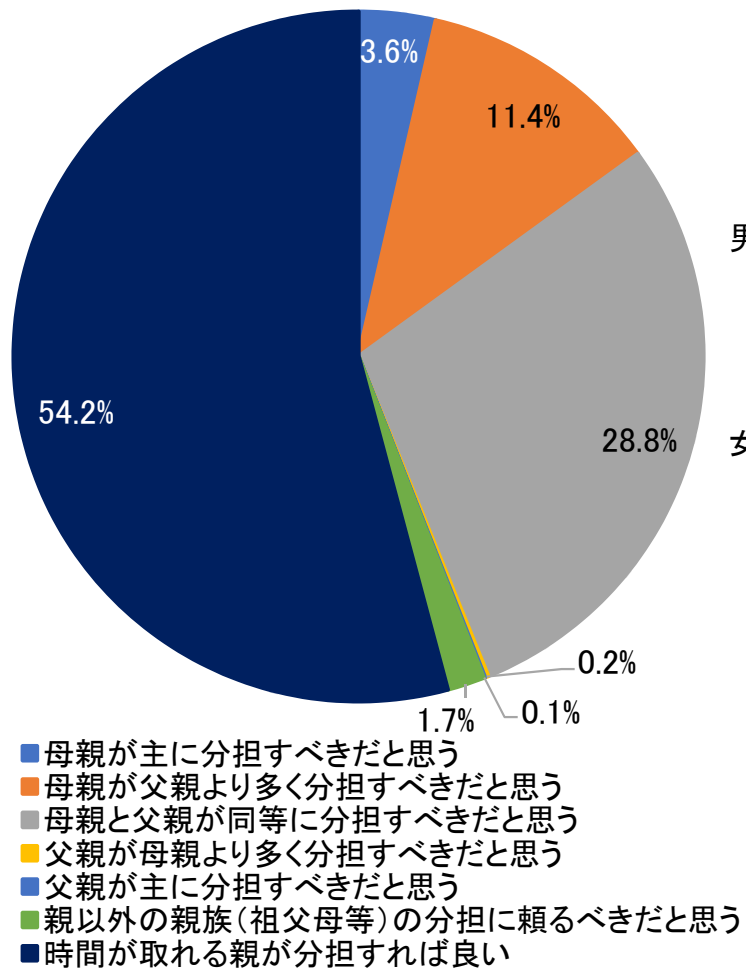


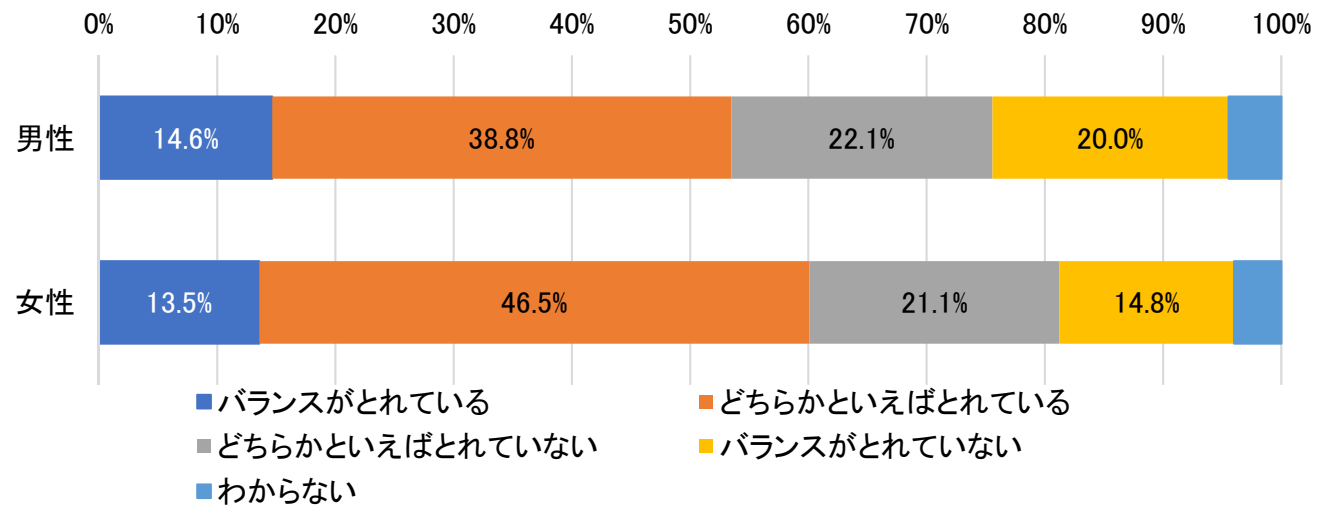
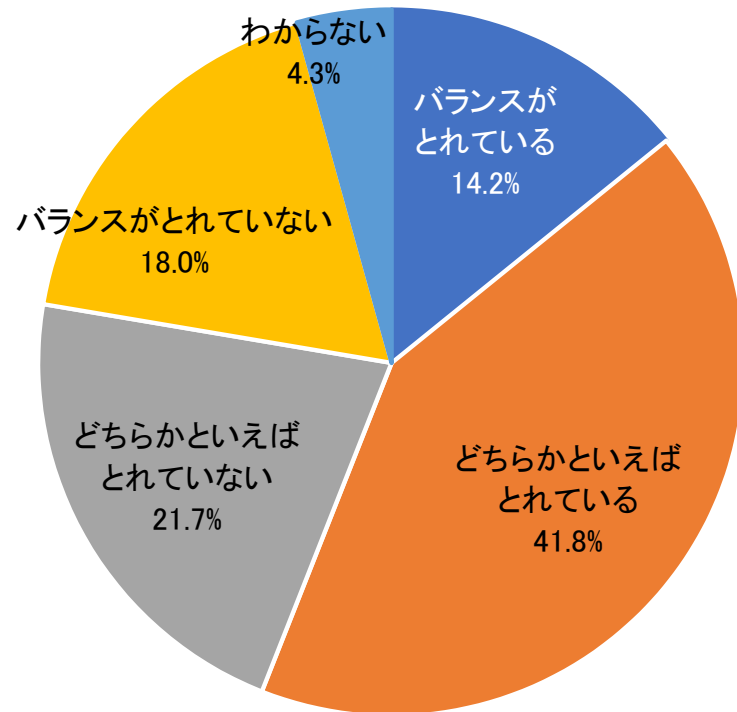
全体





全体

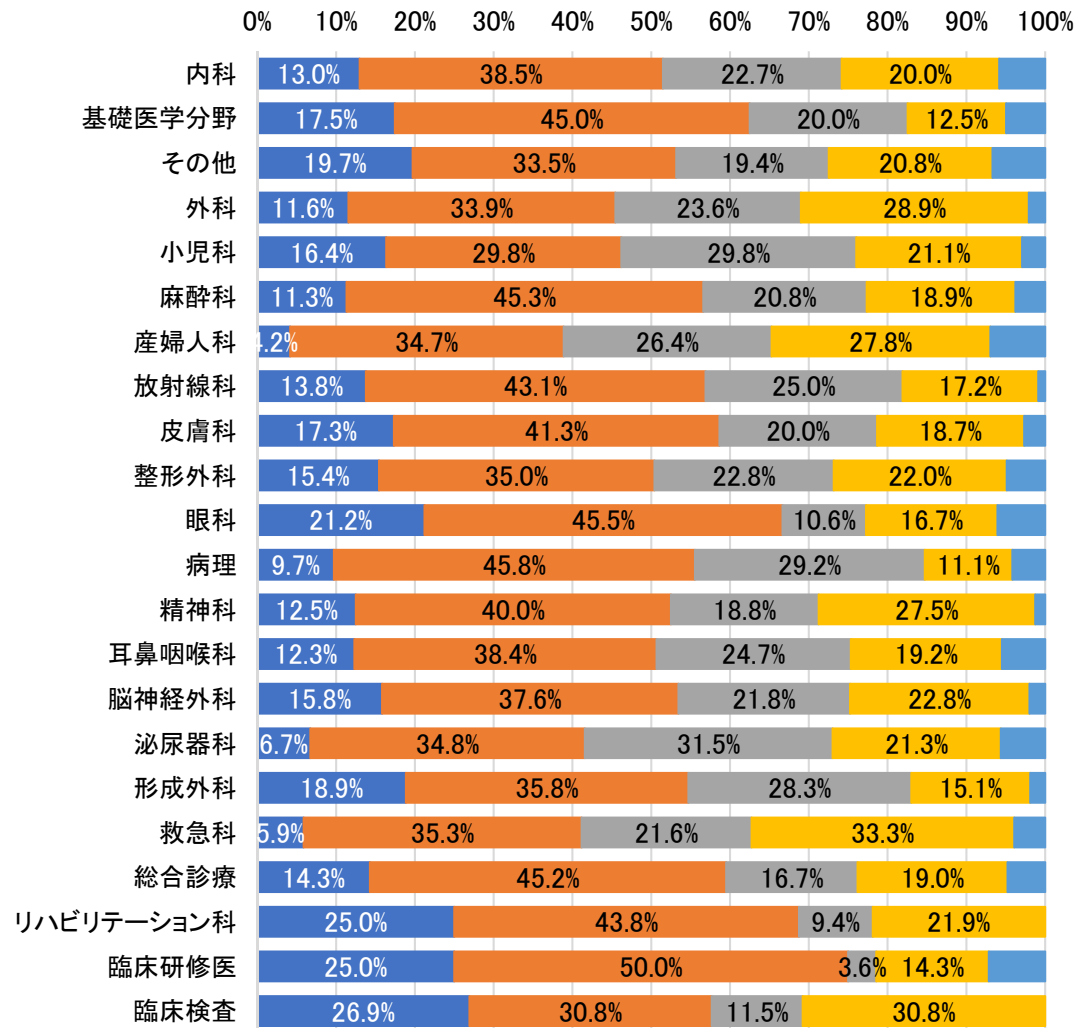




ワークライフバランスは取れているか

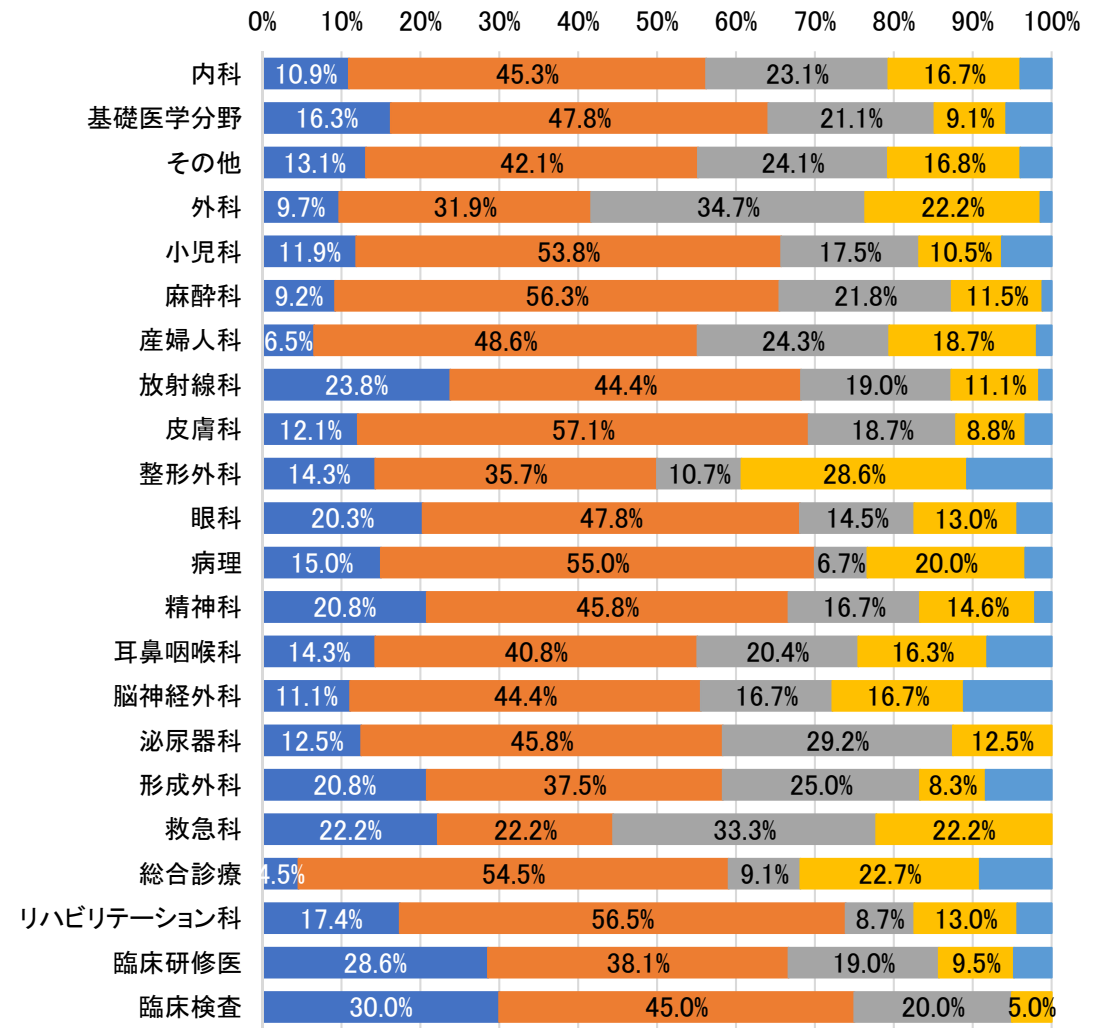
報告書 P84

男性



■ バランスがとれている
 ■ どちらかといえばとれている
 ■ どちらかといえばとれていない
 ■ バランスがとれていない
 ■ わからない

女性

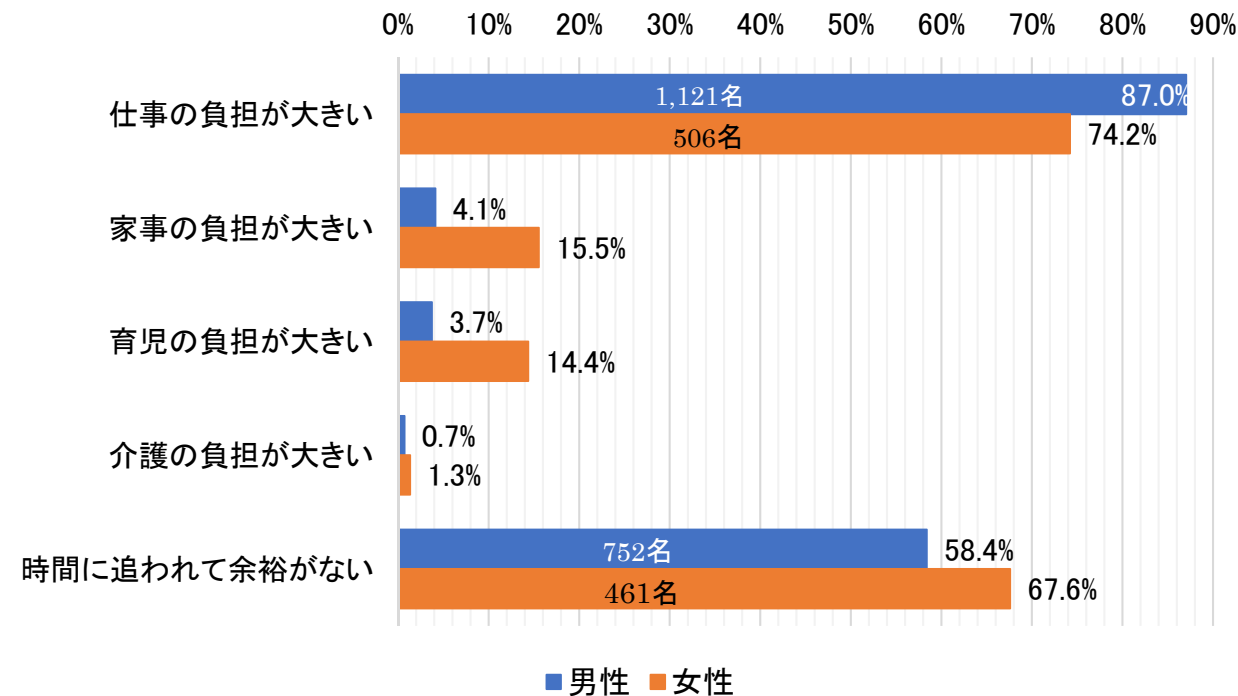


■ バランスがとれている
 ■ どちらかといえばとれている
 ■ どちらかといえばとれていない
 ■ バランスがとれていない
 ■ わからない

全体

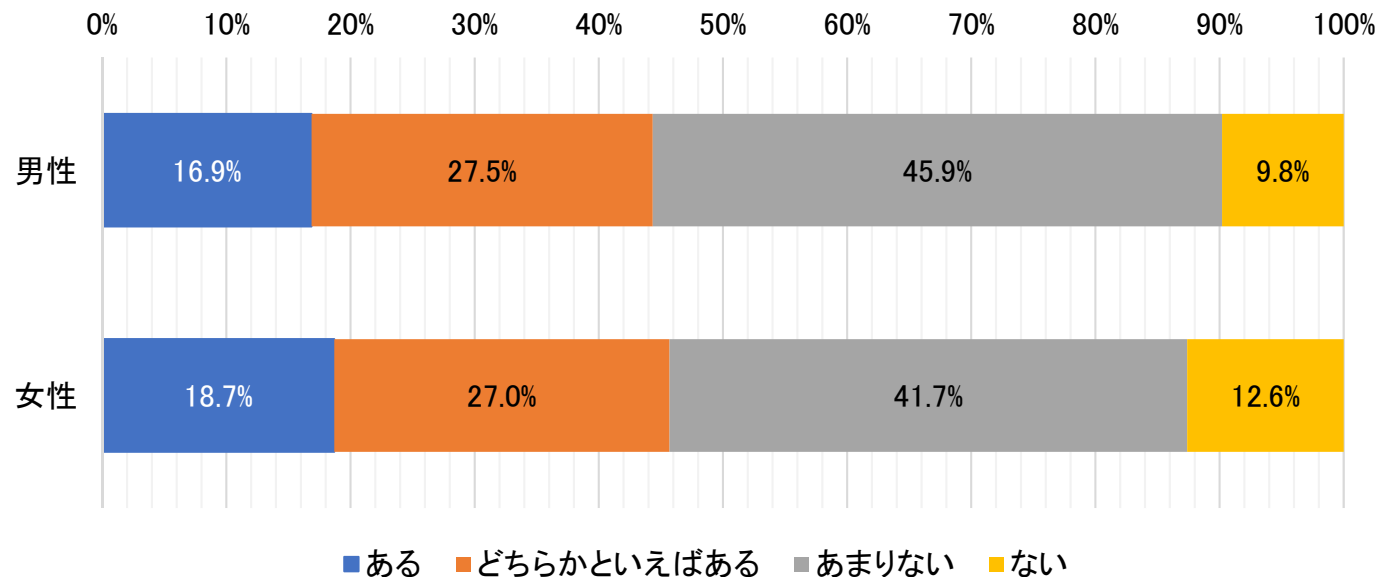
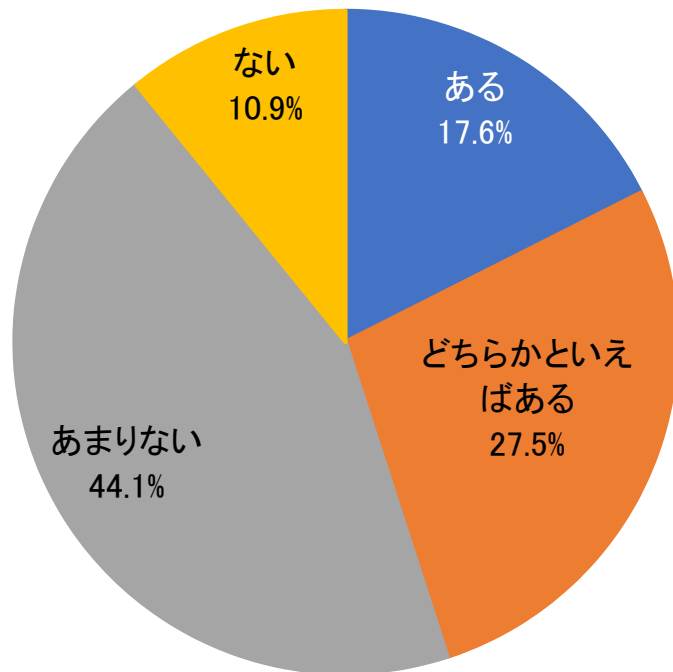
(複数選択可)

理由	回答者数	
仕事の負担が大きい	1,641	82.5%
家事の負担が大きい	162	8.1%
育児の負担が大きい	146	7.3%
介護の負担が大きい	18	0.9%
時間に追われて余裕がない	1,226	61.6%
わからない	42	2.1%
その他	75	3.8%
回答者数(実数)	1,990	名

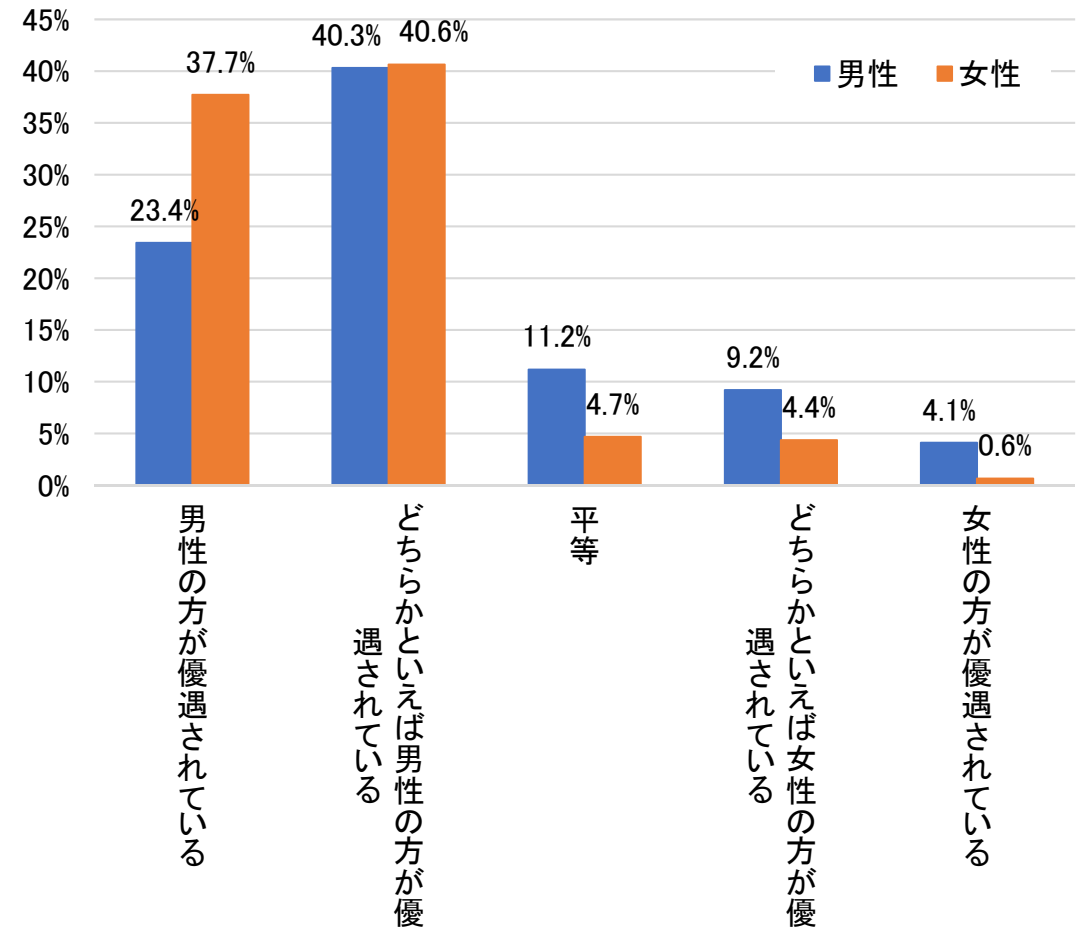
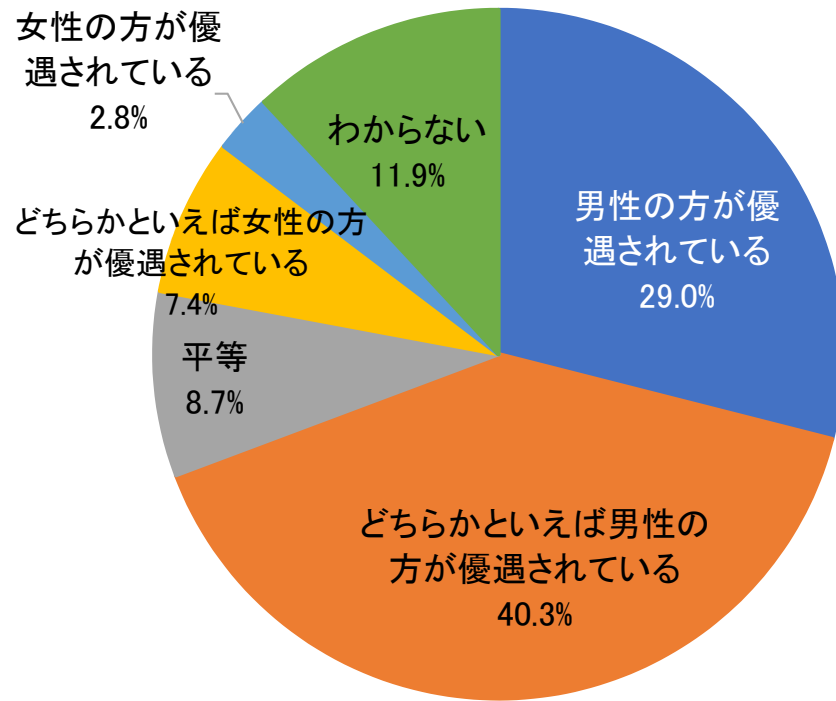


※割合について
各理由の回答者数を実数（男性：1,288名、女性：682名）で算出している。
なお、全体の回答者数には性別を回答しない者も含まれているが、男女別グラフには含めていない。

全体



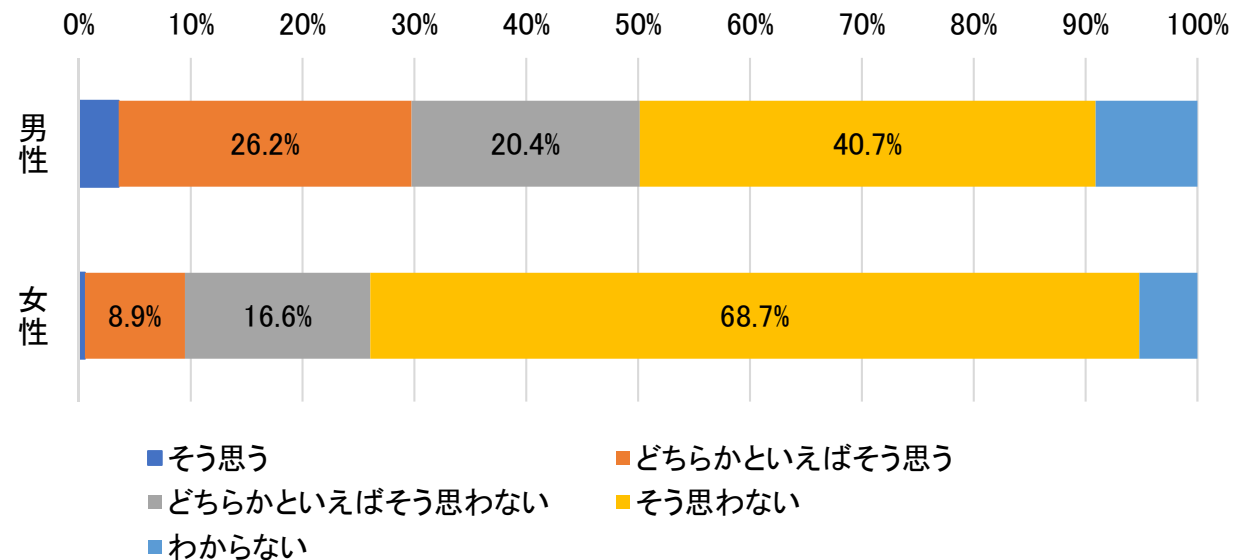
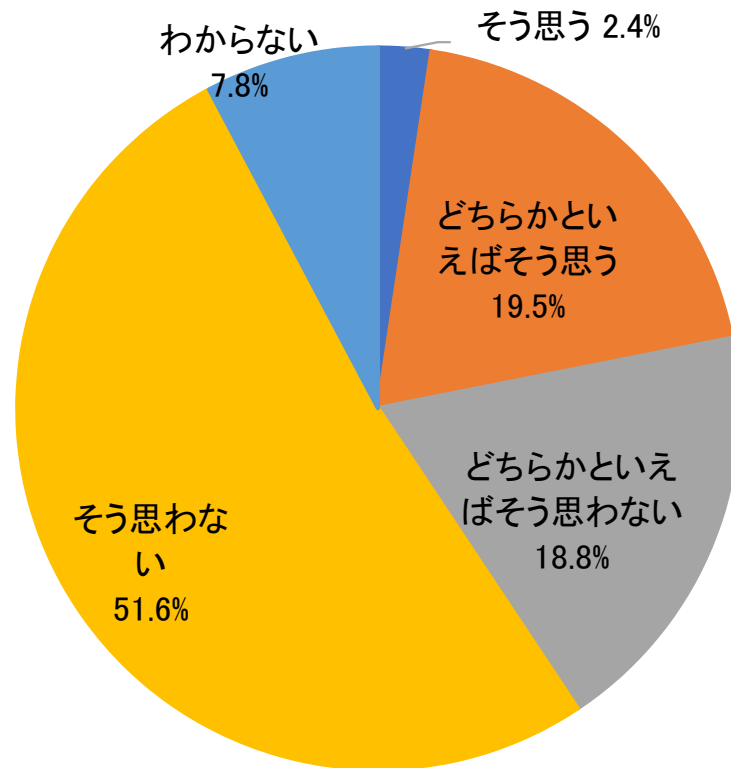
全体



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」との考え方について

報告書 P123

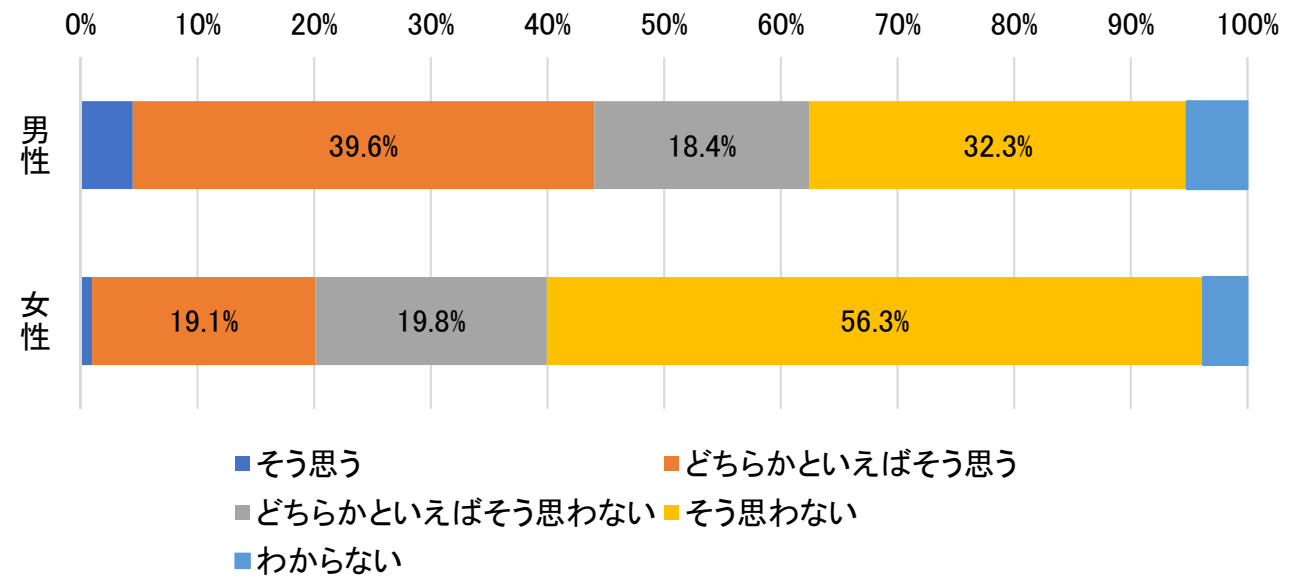
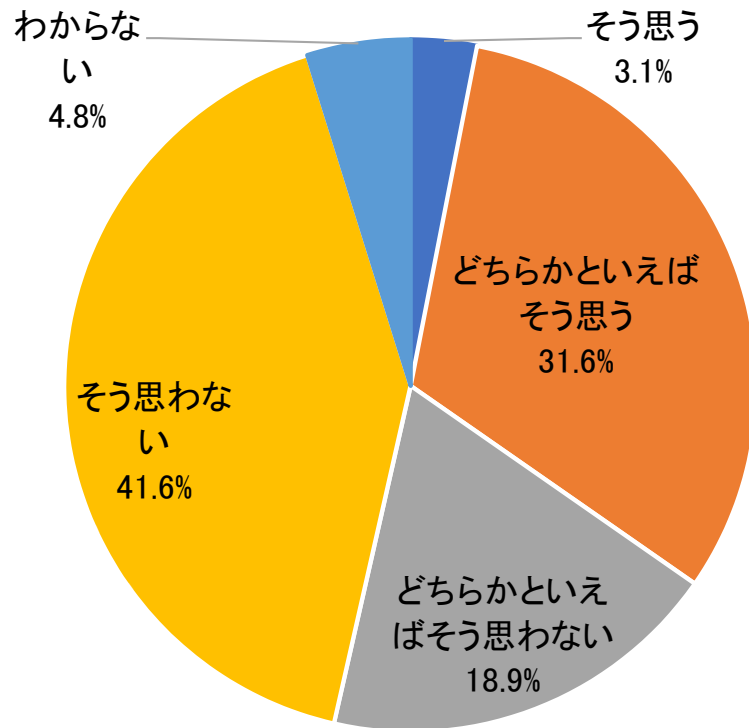
全体



「育児は母親でなくては」との考え方について

報告書 P126

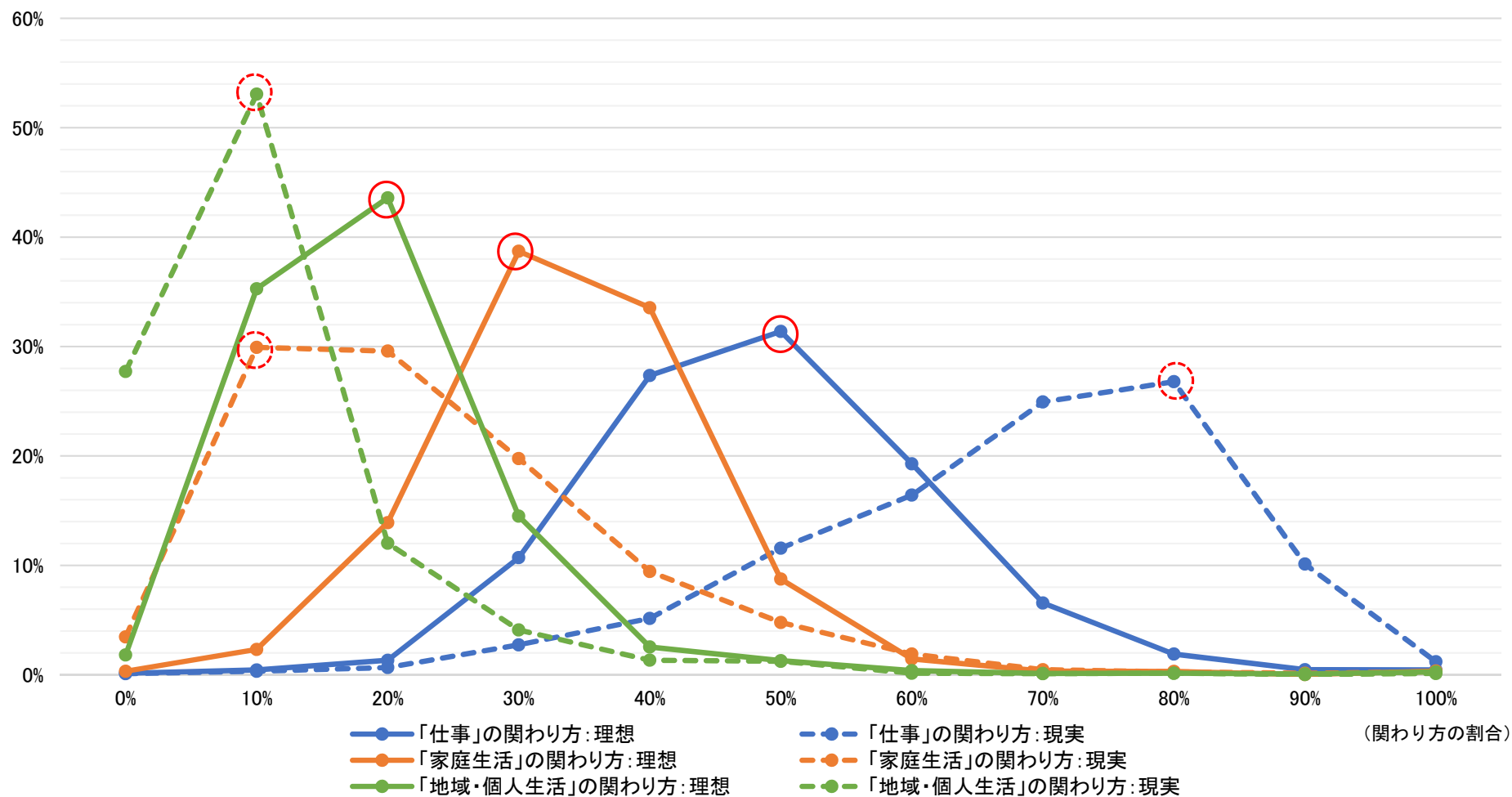
全体



「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方の理想と現実の割合

全体

(回答割合)



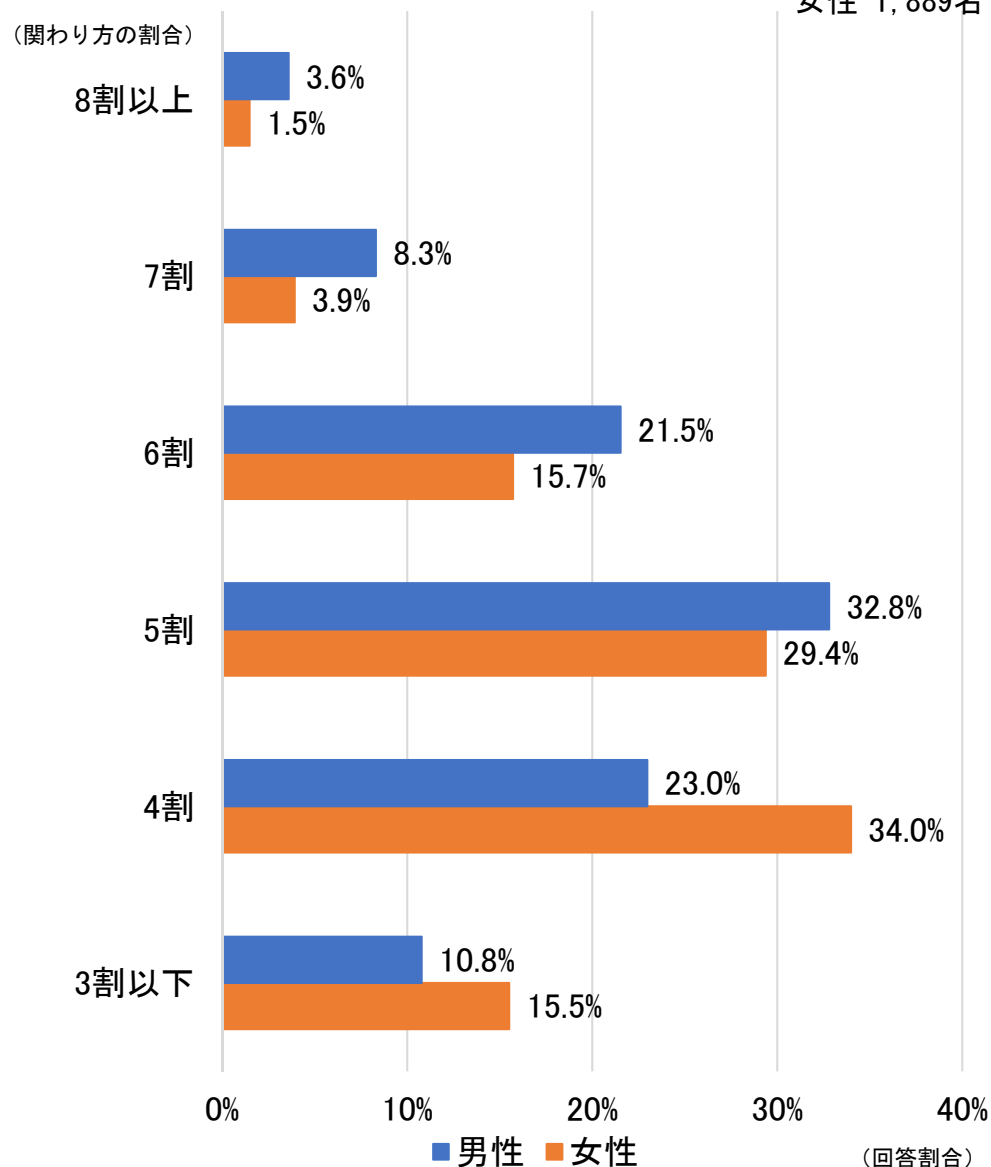
理想の関わり方は、仕事 5 割、家庭生活 3 割、地域・個人生活 2 割
 現実の関わり方は、仕事 8 割、家庭生活 1 割、地域・個人生活 1 割

※回答は「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の合計が 100%になるよう選択

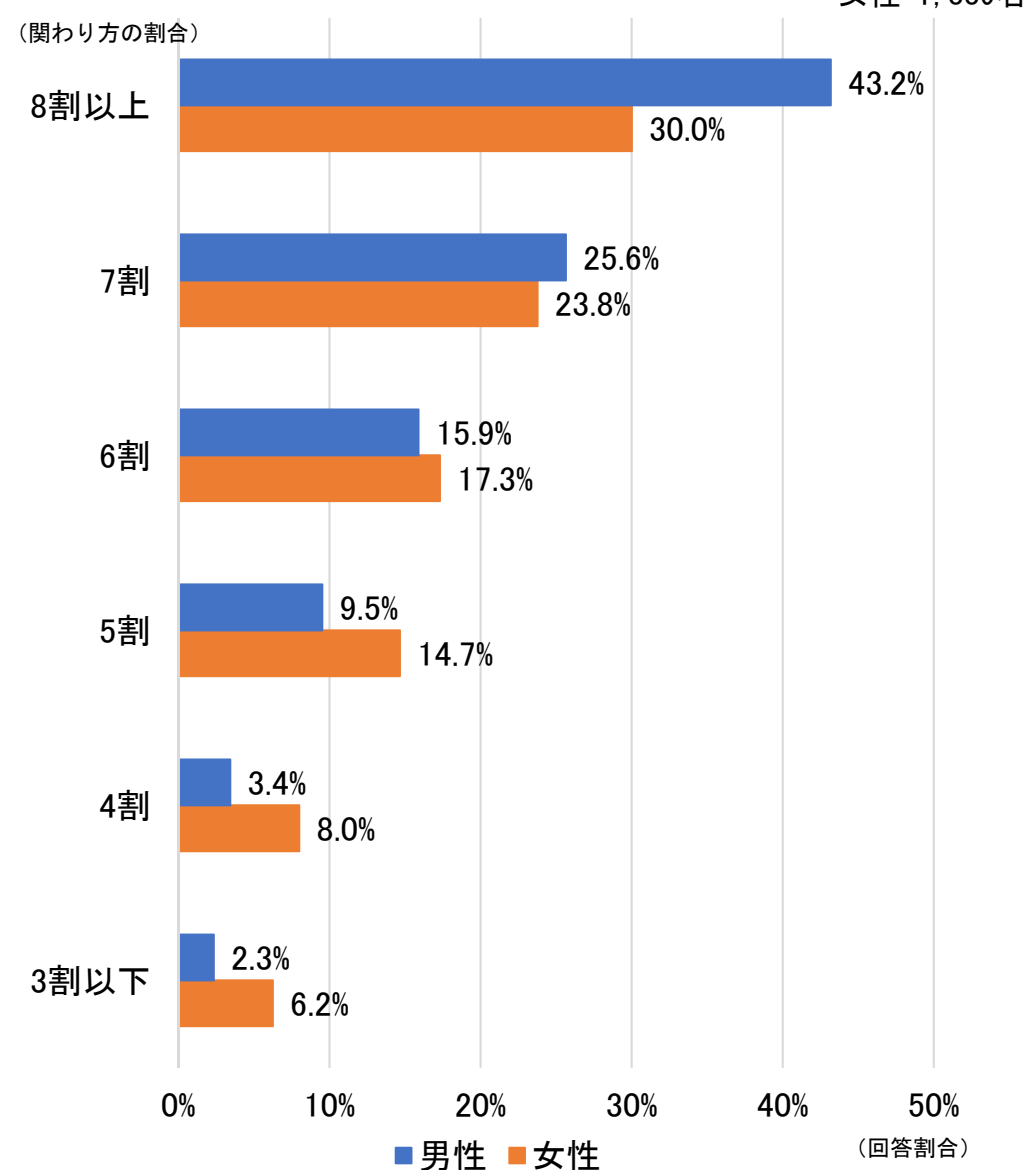
「仕事」の割合の理想と現実

報告書 P152, 156

「仕事」の関わり方の理想



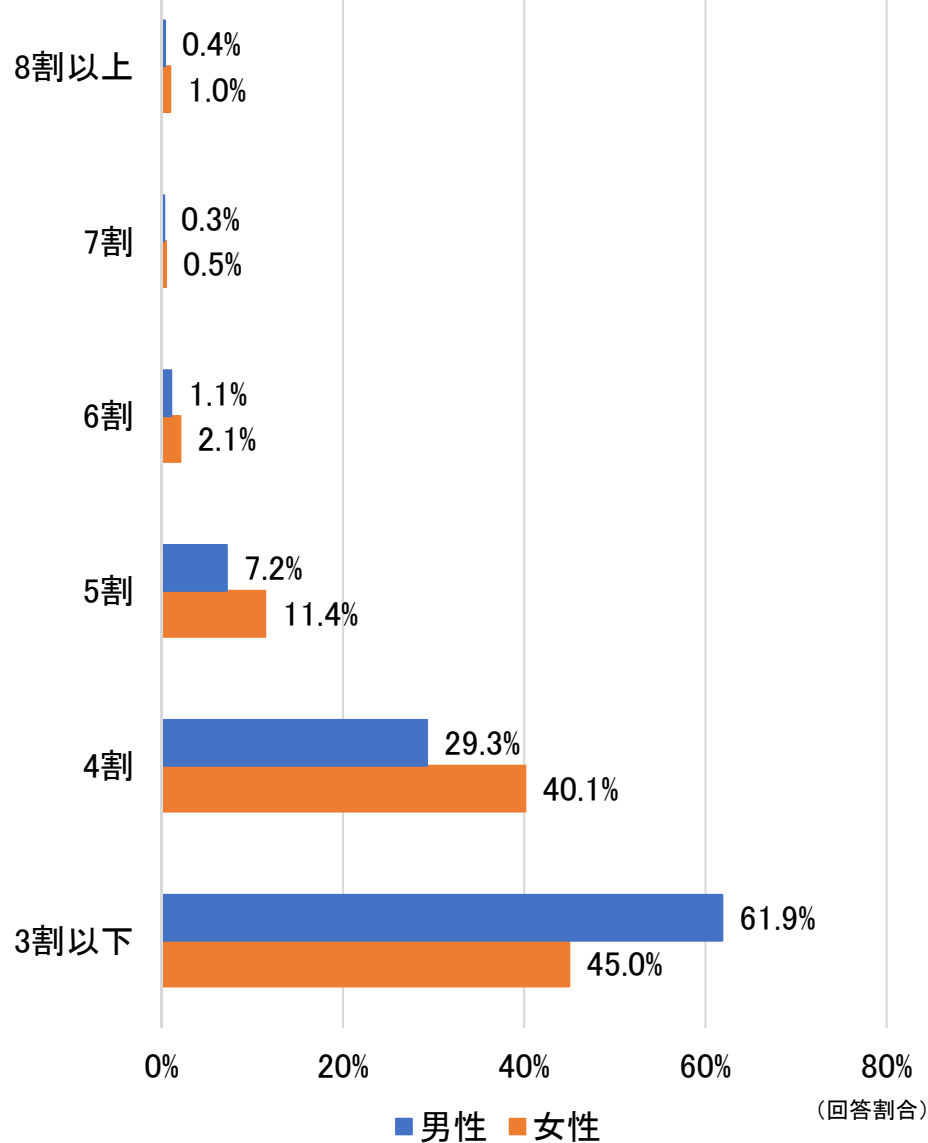
「仕事」の関わり方の現実



「家庭生活」の関わり方の理想

回答総数
男性 3,023名
女性 1,892名

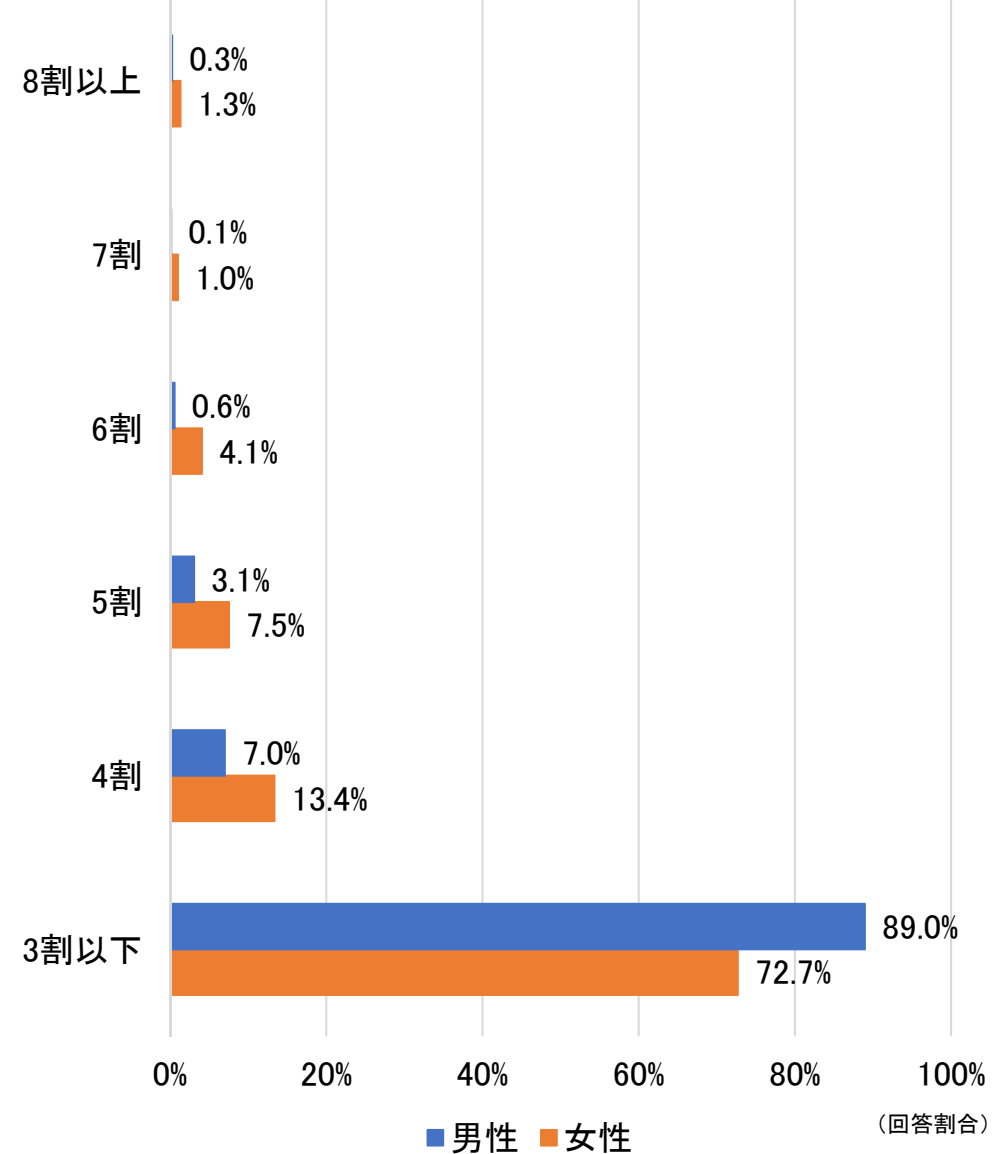
(関わり方の割合)



「家庭生活」の関わり方の現実

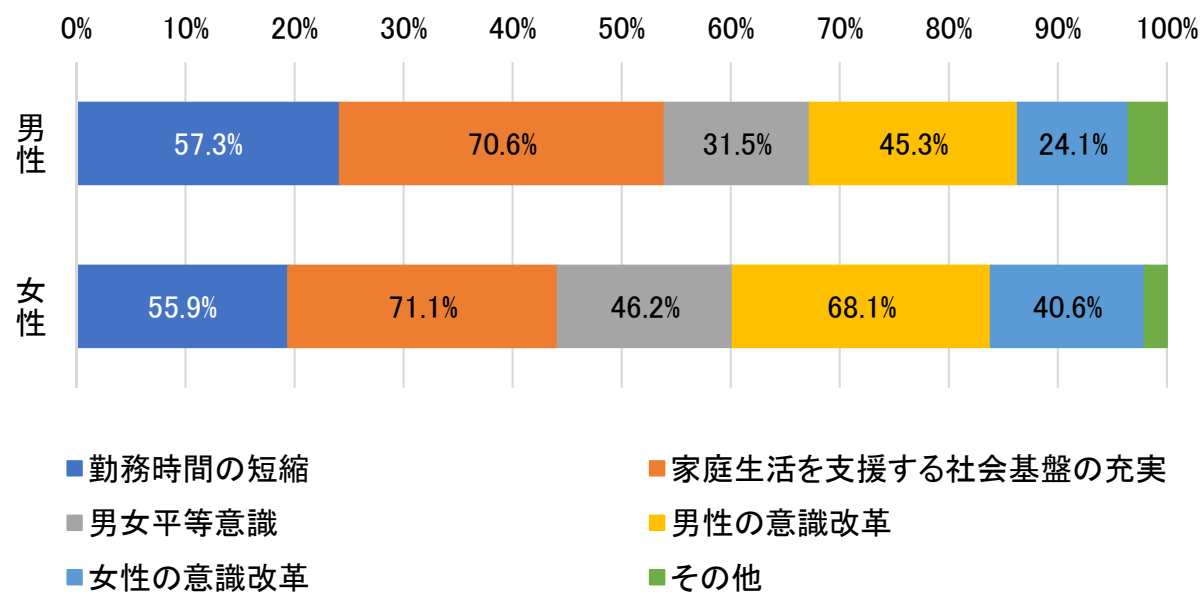
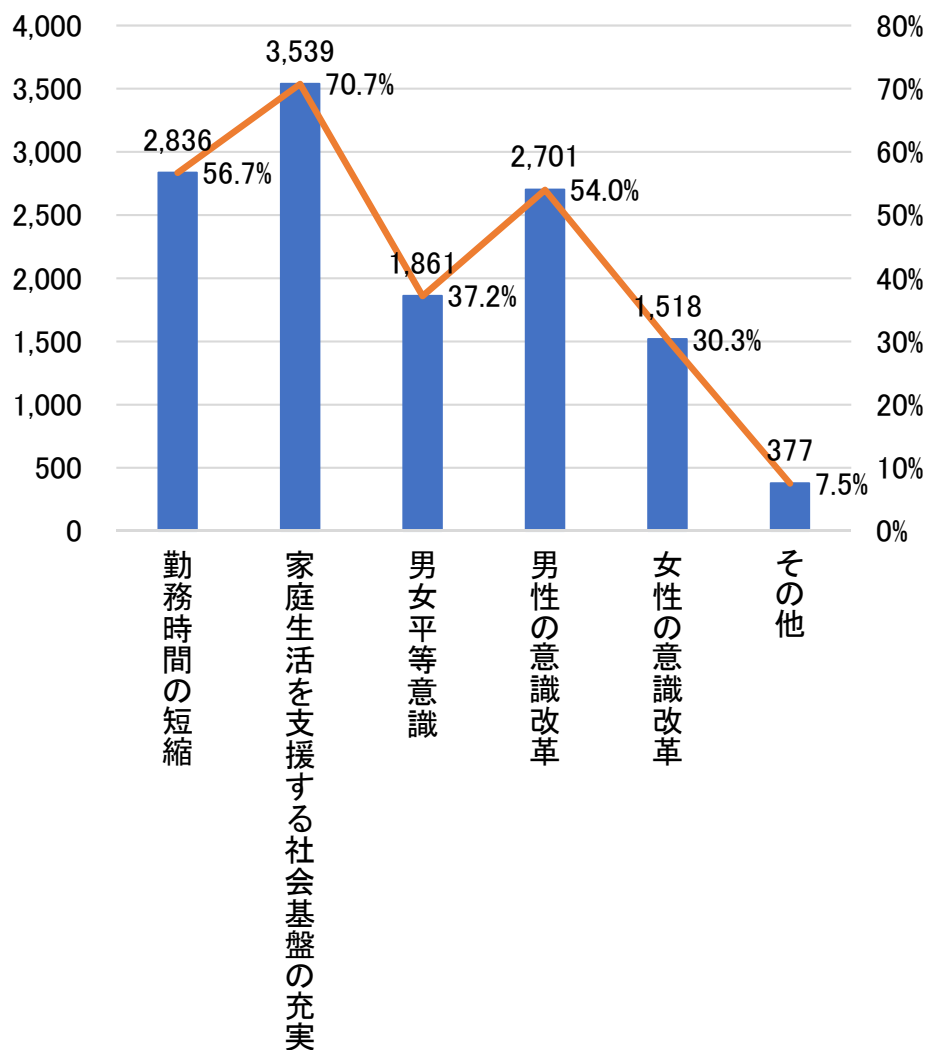
回答総数
男性 3,027名
女性 1,886名

(関わり方の割合)



両性が家事、育児、介護、地域活動に参加できるようになるために必要なことは？（複数選択可）

報告書 P122



男女共同参画に向けての提言

1. 性別役割分担意識の是正

わが国においては、男性は外、女性は内、という性別役割分担の思想が根強く残っており、家庭内の仕事を女性医師が多く分担している状況が、女性医師活躍の障壁となっていると考えられた。若い世代での意識は変わりつつあるが、育児や家事などの家庭内労働も男女同等に分担するための指導層の意識改革が「一億総活躍社会」「女性活躍推進」「男性の家事・育児などへの参画」に重要である。

2. 長時間労働の是正

大学・大学病院の医師では、長時間労働が常態化しており、特に男性医師で顕著であった。労働時間の男女差を解消するためには女性も男性と同様の長時間労働をするのではなく、男性医師の長時間労働を是正するための取り組みが必要である。時短勤務や当直免除などを、女性医師を対象として進めることは、性別役割分担を助長し、男女不平等、不公平感を増す事になる。性別に関わらず実効性のある働き方改革が必要である。

男女共同参画に向けての提言

3. 家庭生活を支援する社会基盤の充実

わが国における家事、育児、介護などを支援する社会基盤の整備不足が、高度プロフェッショナルである医師、特に女性医師の活躍の障壁になっている。社会基盤を整備し、自らあるいは家族内で完結しなければならないという発想から脱却することが必要である。

4. 経済的基盤の充実

大学・大学病院が支給する医師の給与は高度プロフェッショナルにも合うものではなく、それだけでは生活が厳しい。そのため、外部の医療機関で非常勤医師として診療や当直をすることが常態化しており、特に、男性医師の長時間労働と当直の多さは男性の家事育児の分担を妨げ男女共同参画の妨げになっている。育児や介護の支援にも経済的負担は生じることから、大学病院医師の経済的基盤強化を国に提言する必要がある。2024年から施行される医師の働き方改革の観点からも、この対策は重要である。

一般社団法人全国医学部長病院長会議 男女共同参画推進委員会

委員長 唐澤 久美子（東京女子医科大学）

委員

山本 明美（旭川医科大学）

名越 澄子（埼玉医科大学）

林 由起子（東京医科大学）

大久保 ゆかり（東京医科大学）

前田 佳子（昭和大学）

服部 信孝（順天堂大学）

萬 知子（杏林大学）

鈴木 利哉

（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）

梅田 朋子（滋賀医科大学）

澁谷 景子（大阪市立大学）

上田 夏生（香川大学）

加藤 聖子（九州大学）

高松 潔（東京歯科大学市川総合病院）